

女誠
繪入

女実徳教

上
巻

東中井

席

人の子れ中^{ちゅう}は男子^{なんし}に師^しと^とりて^て学^{がく}文^{ぶん}
とは^とあ^あさ^させ^せあ^あと^とり^り人^{ひと}所^{ところ}と^と修^{しゆ}る^るた^たと^と
修^{しゆ}つ^つし^しつ^つも^もあ^あれ^れど^ど女^{によう}子^しは^はあ^あり^りて^てい^いと^と
い^いつ^つ人^{ひと}も^もま^まれ^れり^り女^{によう}子^しは^はい^いく^くり^りて^てい^いと^と
純^{じゆん}乃^の家^けに^にも^もい^いる^るま^まは^はま^まに^にい^いる^る男^{なん}女^{によう}子^し
は^はい^いつ^つも^もい^いる^るま^まは^はま^まに^にい^いる^る親^{おや}の^のあ^あり^りて^て
い^いつ^つも^もい^いる^るま^まは^はま^まに^にい^いる^る時^{とき}



と嫁つるなりと教へるなり。夫のなり。育
家。この海の人。心と見て人なり。
ト。この人。さきま。あ。ば。や。され。明
れ。太。宗。皇。帝。は。后。の。お。く。も。内。割。二十。章
と。撰。り。さ。は。い。く。女。の。と。ん。か。る。る。と。さ
つ。漢。の。賢。女。曹。大。家。の。女。編。後。十二。章。と
併。り。く。貞。女。の。乃。と。教。へ。る。の。女。戒。七。章
と。つ。う。て。我。の。娘。と。志。た。く。つ。う。と。

江戸。唐。の。朝。教。師。陳。邇。の。書。鄭。氏。の。女。孝。經
十八。章。と。撰。ひ。の。い。く。その。や。れ。教。へ。つ。
つ。う。と。志。れ。も。漢。の。書。の。わ。の。女。の。漢。志
の。さ。き。の。つ。う。と。誰。の。これ。と。大。和。云。れ
る。の。つ。う。と。女。の。書。と。石。付。て。つ。う。と。
つ。う。と。の。つ。う。と。さ。な。と。つ。う。と。男。と。れ。し。へ。入
つ。う。と。の。つ。う。と。さ。な。と。つ。う。と。の。人。の。つ。う。と。
つ。う。と。整。く。お。の。つ。う。と。つ。う。と。つ。う。と。の。つ。う。と。

一萬は是いきくらゐ金

所海ふ河の別きり

一背あは是万代の宝

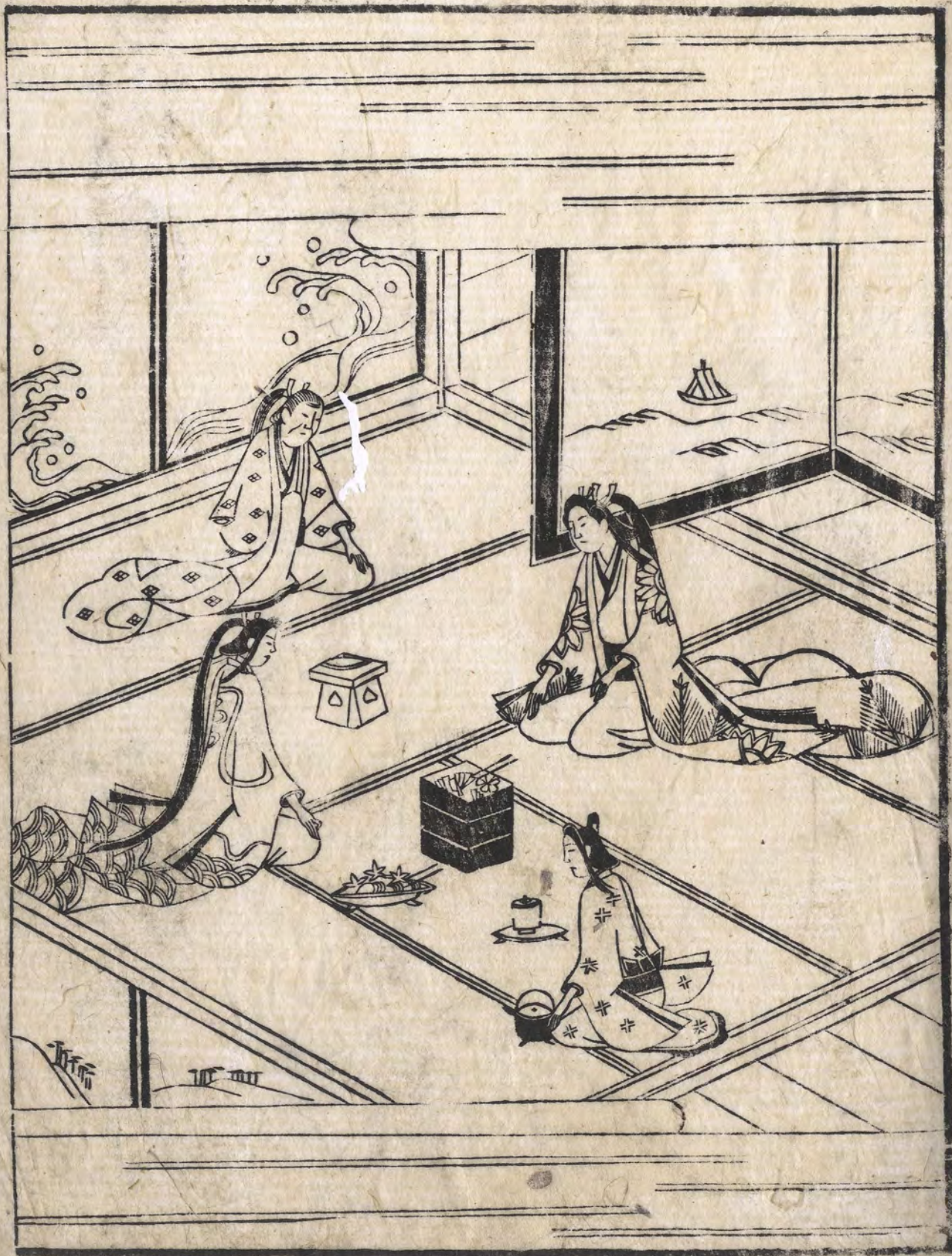
余終る河の根は

一心得はしる義な

我ふは高敷に

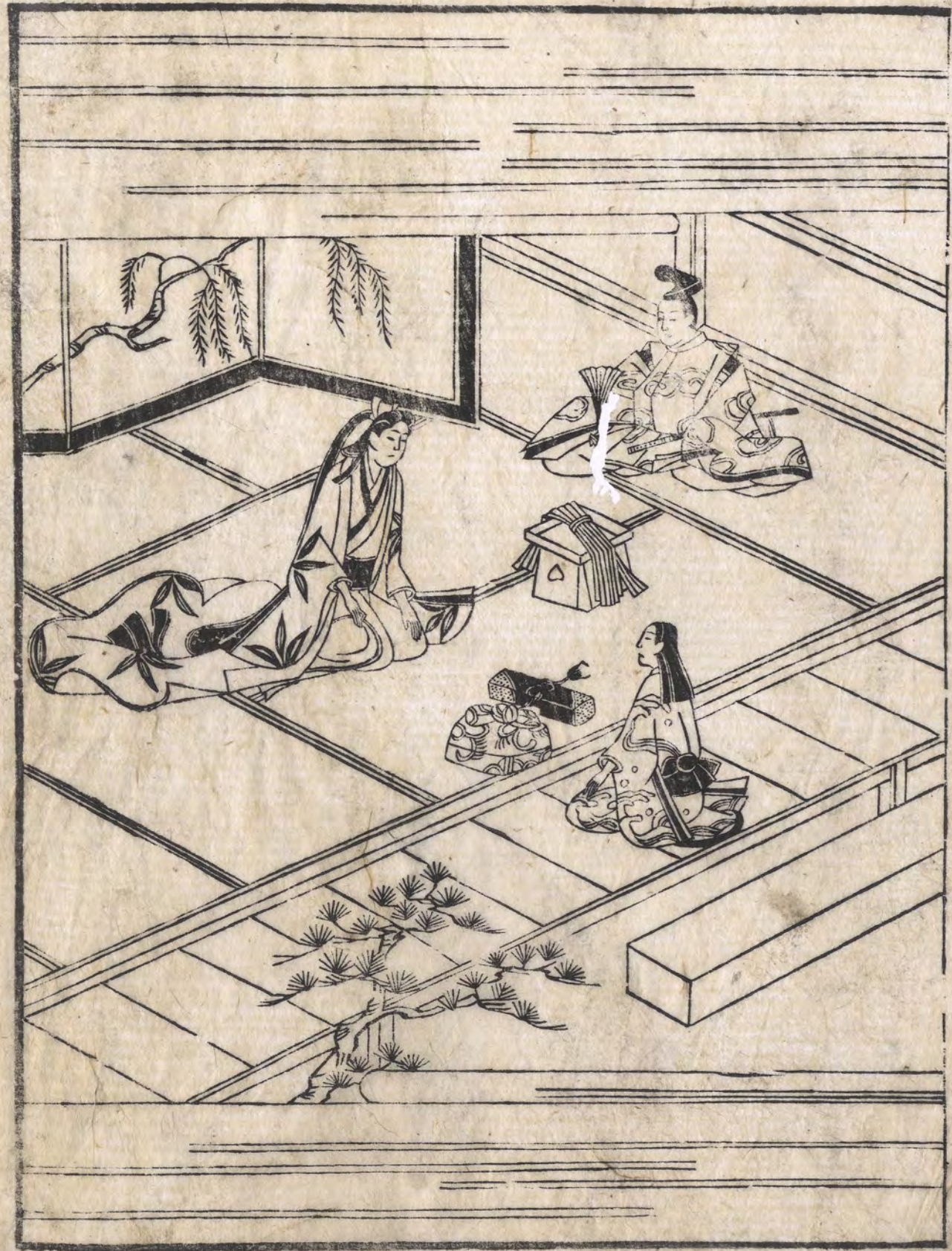
一勅字は女は

女ふは常木は



一眉目^{まゆめ}くらゐ^{くらゐ}妻^{つま}より
貞女^{まこと}は^はく^くは^はく^く
一歩^{いっぽ}は^は金^{かね}と^とは^はひ^ひと^とは^はた
人の^{ひと}さ^さは^はち^ちら^らよ^よい^いき^きな^な

一月服はき
袖裡と姉妹
わらわとみづから
ふりてはき



一 姿すがたへ目めをみかへあ

そとまへそとの年としへあ

一 幼こ時ときもあつあつた

うへへうへへへへへへへ

一 故こ物ものあつあつた

わい針はりはあつあつた

一 眠ねとのぞくぞく續つづとと子こ

飢うとあひあひへへ續つづとと子こ

一姑いもうとよあひて書かく字じををた

家いへと持もち

一丈いちさうよ江戸えどより大おほき味あじな

もとろくにん

一姑いもうとよ成なりていふと先さき

嫁よめハ四男よにん姑いもうとと人ひと

一馬いば家いへよとていふと

たりたり

一貪まう——い人ひと乃なり毒どく也なり

清潔いさげはい女に當あじき

一父母ちいふの天地あめつち乃なりでいハい

男おとこ娘むすめ月つき日ひのなり

一丈ちやうのなり人ひとの老らう乃なりト

女にのなり後ご者しやのなり

一父母ちいふのなり胡こ乃なり孝かうとなり后ご

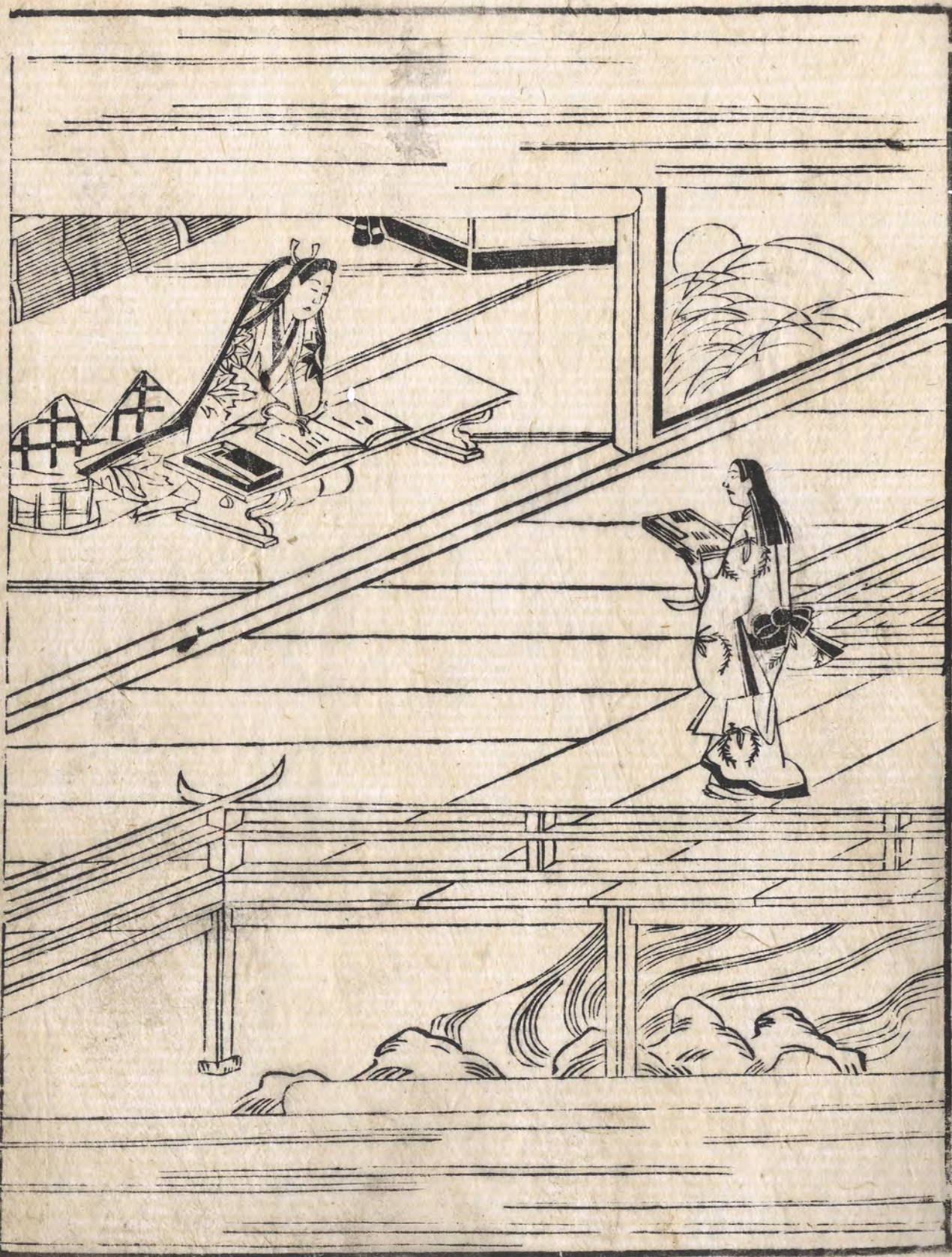
男おとこ娘むすめのなり恭こうはい子このなり

一丈婦争い嘆のあら

理とむげてよと
河人

一妓
ふらふら

才娘ふ毛のふ海



一女として志氣あね

若木乃情ありまき

一姫として孝の心あり

多敷く天の心



一、^う二式^{しき}後^ごと守^しり所^{しよ}を^をん

うん^んそ^そ又^{また}の隙^{ひま}と^とねん

一、^{とん}守^し具^ぐと^と張^は丁^{てい}より^{より}守^しる^るん

非^ひハ^ハ若^わく^く也^やも^もとな^なえ

一、^い女^{にょ}の^の地^ち獄^{ごく}乃^な使^しち^ちを

よく^{よく}仏^{ぶつ}の^の種子^{しゆじ}と^とん

一、^あ面^{めん}の^の善^{ぜん}後^ごは^は似^にて^てん

ん^んの^の夜^やみ^みは^はと^とん

一姑とるやふ母のく

継子と毛すう子ば

一丈と恭ひつふすう

丈又書あてあ慙へ

一己丈の親とるや

丈又己親とるや

一我母とるや

ら丈の衣とるや

一代の書は邪多しと云ふ

ふくむと嗜み

一代の文は古多しと云ふ

ふくむと嗜み

一語の古多しと云ふ

ふくむと嗜み

一信の古多しと云ふ

ふくむと嗜み

一杯いちぱいふ人ひとの禍わざはひよ

身みは新あらたなるね

一いち萬まんとて子こも貧ひん乏はくと

綾あやも人ひとも櫻おう花はな



一武始業終
おん

或
心
以
來
後
後

一
其
指
勒
て
益
は
る
と

續綜繼針乃業



一又學是して助すけとあり

讀書系しよ糸竹しよ安あ海かいの

一但た不ふ一し海かいひて法はふあり

又身みは毎まいく程ほどあり

一或ある一し家い業ぎふと休やすみは

にさるなり以も時とき親おやは海かいに

一嫁よめくくいいととは海かいに

老おいてて子こにに志しととにに

一是女^ん之^に後^{のち}なり

身^み終^はる^るも^もて^て是^{こゝ}終^はる^る

夏^{なつ}な^なん

女^を実^{じつ}に^に終^はる^る



江戸樂舎用



女誠
繪入

女帝子教

下
巻

東中井

女弟子教



一丈^{それ}上^うは^はこの^こに^に前^{まへ}へ

恭^{こう}み^みそ^そを^をと^とせ^せて

一^い貴^きなる^{なる}人^{ひと}は^は今^{いま}も^もて^て過^かす

任^{にん}事^じの^のつ^つて^ては^は致^ちさ^さず^ずな

一、ことをたぬ志をくみぬ

我れ外より入りぬ

一、こいほつて巻へられ

宣のたまふふつてはくえ

一、か宝よふにふれとす

秋しん明めいとふ二度種しゅと

一、こ陵とふる時止はれ

社やしろちとふる時海うみ魚いし

一宮寺みやうよりよりはる時とき

をわづらひたはと情じやう

一肉外にくがひの書かきとと元もとあつた

わづらひににはるは

一客人きやくじんははわひらひ

吏しよよくははま

一婦人ふじん礼れいととくすね

男おとこ姑ははへへあある

一家に礼義をたて
父母の命をたもつ
人の行を代言とせ
更なる早ゆへ



一何よゆれても衣をよこ
いり罵詈雑言のなれ
一諸お月さ女不才
狂女の身はいくら



一 儂とろ女をハ酒さけところニ

世よ世よ女をハ家いへと飲のむじ

一 何なんと女をハああららななるる

いい死しくく貞ちやう女をハしし實じつ

一 死し女をハ家いへと活かるる

とと女をハ勸すすめめるる

一 嗣し相さうらら所しよハ出でるる

金かねとと何なんとと錢せんのの帳ちやう

一 氏へ住まふはなりぬ

家業の勅は悔ふ

一 男は酒と淫て悲し

情の如く此の世

一 女は月の夜あけ

人障れ飛ぬ

一 女は子時、朝よは

膚を包みあはれ

一 悦よろこびほくす 地ちともふもいいくく 笑わらふ

服はく立たののめも甚し怒どに

一 乞こふふ 言こと葉はととすすて

世よ今いま昔むかしとと古ふるとと今いま

一 白しろ陸りく人ひとととわわああてて名なと

離はな陸りく人ひととと傍そばへへ悔くみ

一 禍わざはひとと福ふくとといいふ

唯ただ人ひとののふふくくああははり

一 天てんの笑わらいもねねるる

自みづかれ笑わらひ道みちづづ

一 其そのれ言ことえと行ゆく家いえよよ

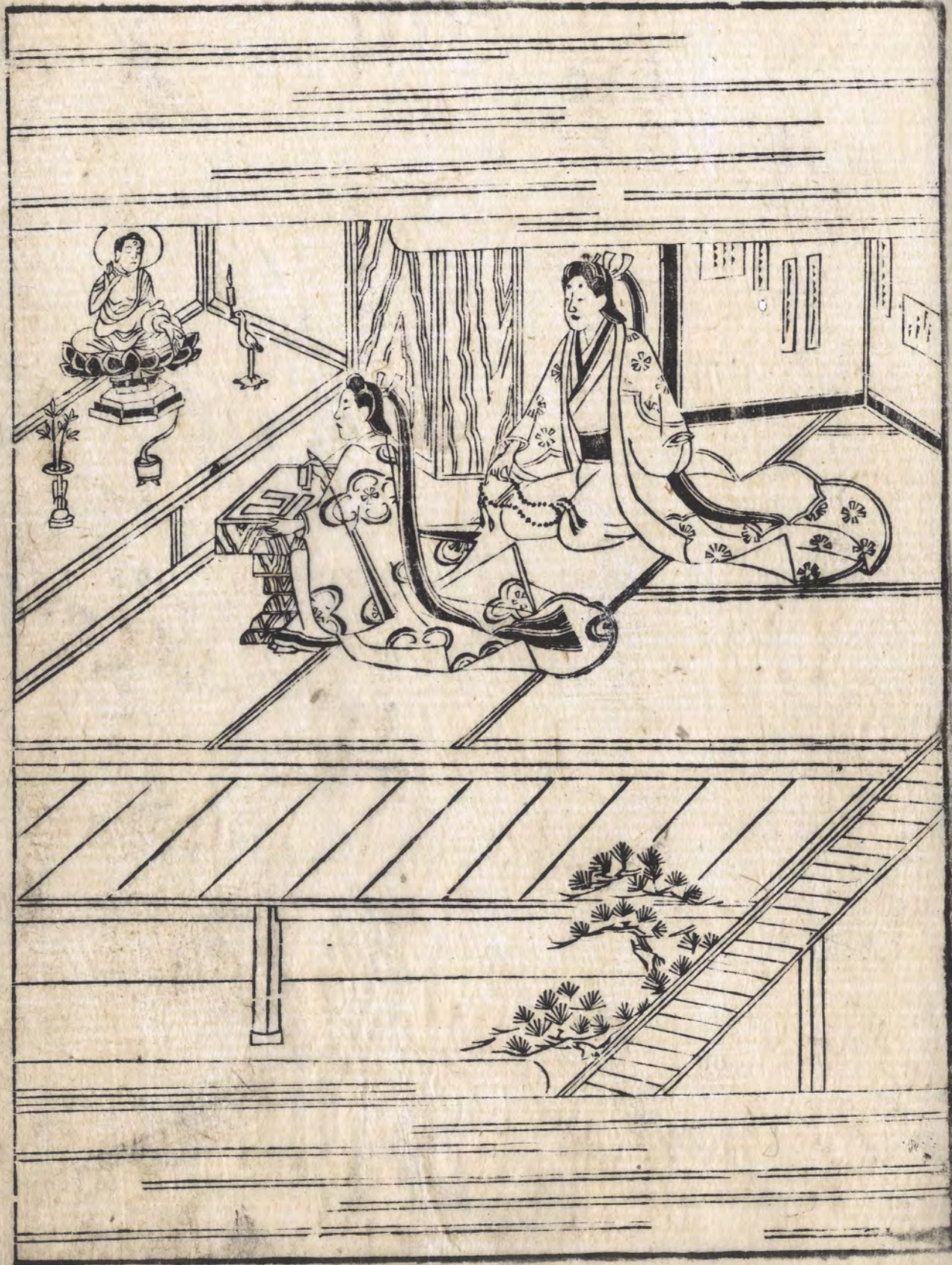
快こころつつきささの解あはれれ

一 又また思おもえさるる所ところ

口くちづづみみれああももととああ

一 人ひと々々強つよの道みちと行ゆくかか

ささげ陽ひかりれ歌うたるる



一丈^{いちじょう}にして外^{そと}とはなれ
女^{にょ}内^{うち}に言^いふ事^{こと}が
一^{いっ}信^{しん}あり人^{ひと}共^{ども}門^{かど}へは
矢^やの雲^{くも}さかき

一葉^い花^{はな}の^の影^{かげ}
さよふ月^{つき}が^のえ
ふの^のま^まの^の西^{にし}風^{ふう}
水^{みづ}乃^の花^{はな}は^のる^る
せ



一他^{ひと}の男^{おとこ}とわあざん

代^{しろ}の女^めとそくしあはれ

一姑^こさんぞとせとせく

よめいすゝめとせ

一嫂^{せう}さん様とせとせ

才^{さい}家^けの師^しとす

一音^{おん}はんはもとて金^{かね}と家^け

面^{めん}念^{ねん}格^{かく}りく笑^{わら}み

一言^{ひとこと}人^{ひと}の^の家^{いえ}に^に参^{まゐ}る^るは^は

無^な人^{ひと}の^の家^{いえ}に^に参^{まゐ}る^るは^は

一貴^{いちき}人^{ひと}の^の家^{いえ}に^に参^{まゐ}る^るは^は

婿^{むこ}と^とも^もの^の家^{いえ}に^に参^{まゐ}る^るは^は

一^{ひと}人^{ひと}の^の家^{いえ}に^に参^{まゐ}る^るは^は

よ^よう^うぬ^ぬ人^{ひと}の^の家^{いえ}に^に参^{まゐ}る^るは^は

一^{ひと}家^{いえ}の^の家^{いえ}に^に参^{まゐ}る^るは^は

夫^その^の家^{いえ}に^に参^{まゐ}る^るは^は

一男おとこは産うてゐる

姑おばあは、いふ、姑おばあは、泣なく

一親おん類るいは、ゆいく、子こを、と

毛あひ紋もんの、人ひとが、あ

一女ひとは、三さん界かいは、家いの、

夫とは、家かと、家かと、

一魚いさは、お、人ひとづ、り、

あ、と、人ひとは、熱あつい

一爰と用て天と竊こづく

針と用て地と竊こづく

一袂ひとえと用て身みと竊こづく

若わくはにに此ことと人ひとと竊こづく

一師ひとと用て子こと戒かいひらる

少すくくははとと此ことと志しと

一ひとと用て心こころと竊こづく

智ちと用て人ひとと竊こづく

一貴^{くわい}の女^をに^にた^たる^るや^や之^し

綾^{あや}の女^をに^にた^たる^る玉^{たま}

一富^ふの子^をに^にた^たる^る貧^{びん}の^の多^たる^る

貧^ふの^の人^をに^にた^たる^る良^らの^の多^たる^る

一貧^ふの^の子^をに^にた^たる^る樂^らの^の多^たる^る

多^たの^の人^をに^にた^たる^る世^よ

一非^ひの^の女^をに^にた^たる^るれ^れ

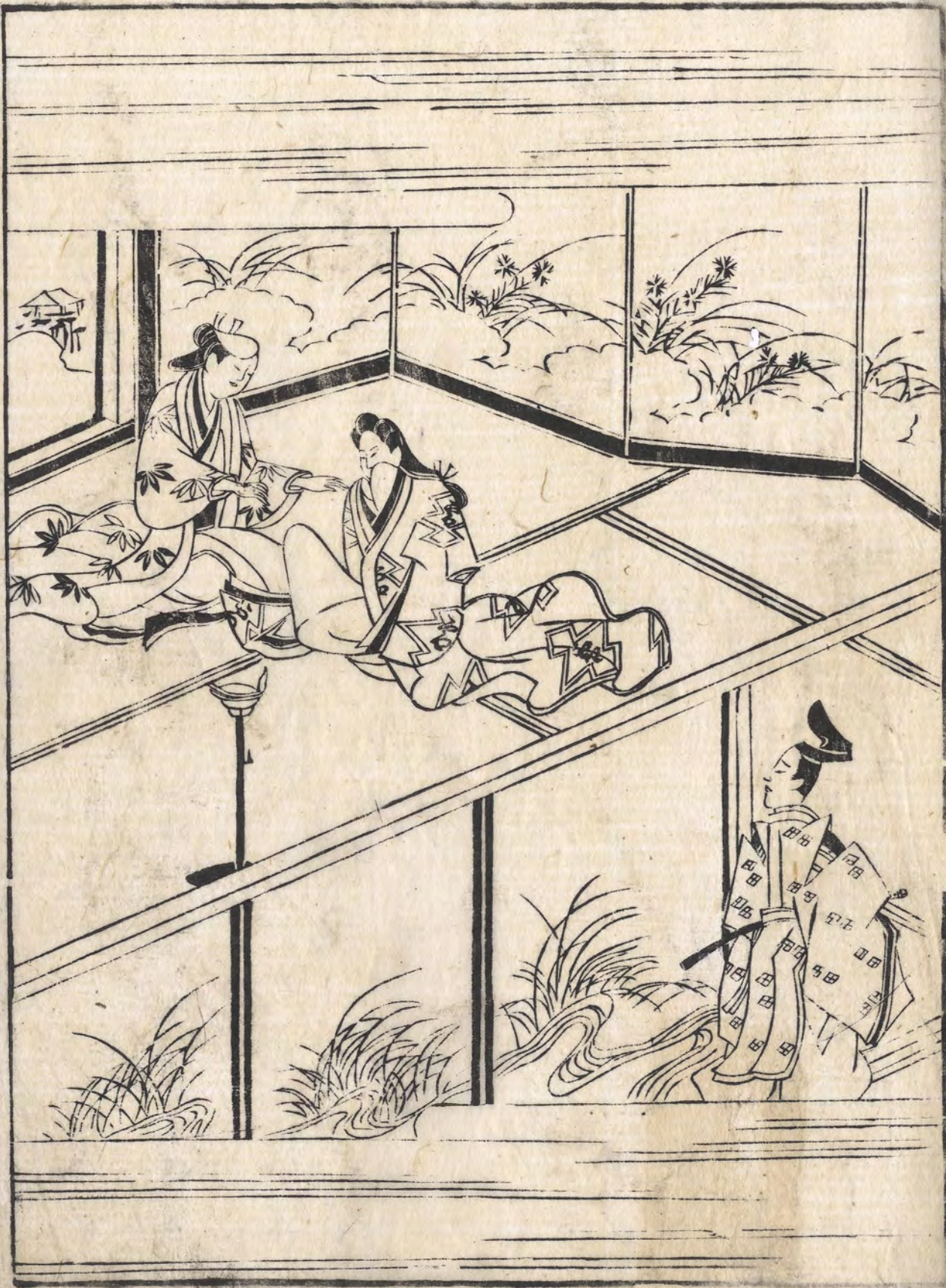
家^けの^の人^をに^にた^たる^る世^よ

一
の
ま
で
め
れ
い

萬之千石

一丈^{いちじょう} 隔^{へき} ぎん^{ぎん} ぎん^{ぎん}

子く里に之を



一和わらう女とさうんすた
仇みとせと乃さるる
一いん何なんでく頑くわんまうい
我わ等ら猫ねこのへろへろろが



一
心
を
け
て
祈
る

鋼考のんようじと

一
吾
人
は
路
ひ
く
あ
る
に
ハ

麻
中
乃
蓬
の

一西人今去て曲わ

救のすゑに

一親マのめり姑マの付マてし

うゑにひたひた縫針

一生しぜんつゝも悪也わると云いふ

智ちつゝ自みづから利りを

一ひとら目めは一針ひとお

三百六十針しち

一ひとともしりながるかどべと補おぎな

一端ひと仕立しだてれ、膚くと

一ひと針はり文ぶん師しとて誅しつは

いふ人ひとや弟あにお

一趙孝婦姑のあま

子と養ふて棺と咽ふ

一系伯の母崔氏を

子に乃九経と教ふ

一胡の早起て餐ふ

男姑のつとめ

一乃のよく寝て

心乃のわんざ

一雨^こ常^とと花^はま^はつ^はは

醉^{さけ}梅^{うめ}く女^{をんな}と春^{はる}

一義^ぎ理^りち^ちに^に礼^{れい}と背^{そく}ハ

万^{まん}々^々高^{こう}敷^しよ^よ乞^こル

一女^{にょ}々^々酒^{しゅ}に^に研^{けん}も^も見^みる

食^{しょく}よ^よあ^あに^にわ^わる^るも^もあ^ある

一風^{ふう}々^々情^{じやう}に^にれ^れ眠^{みん}と^と生^{せい}る

身^み安^{あん}る^るれ^れ奢^{しゃ}者^{しや}と^と好^{こう}む

一 恭公の后伯姫 冬

節義とちりて 焼失

一 鄭精行義と乱

終よ夫人位よ

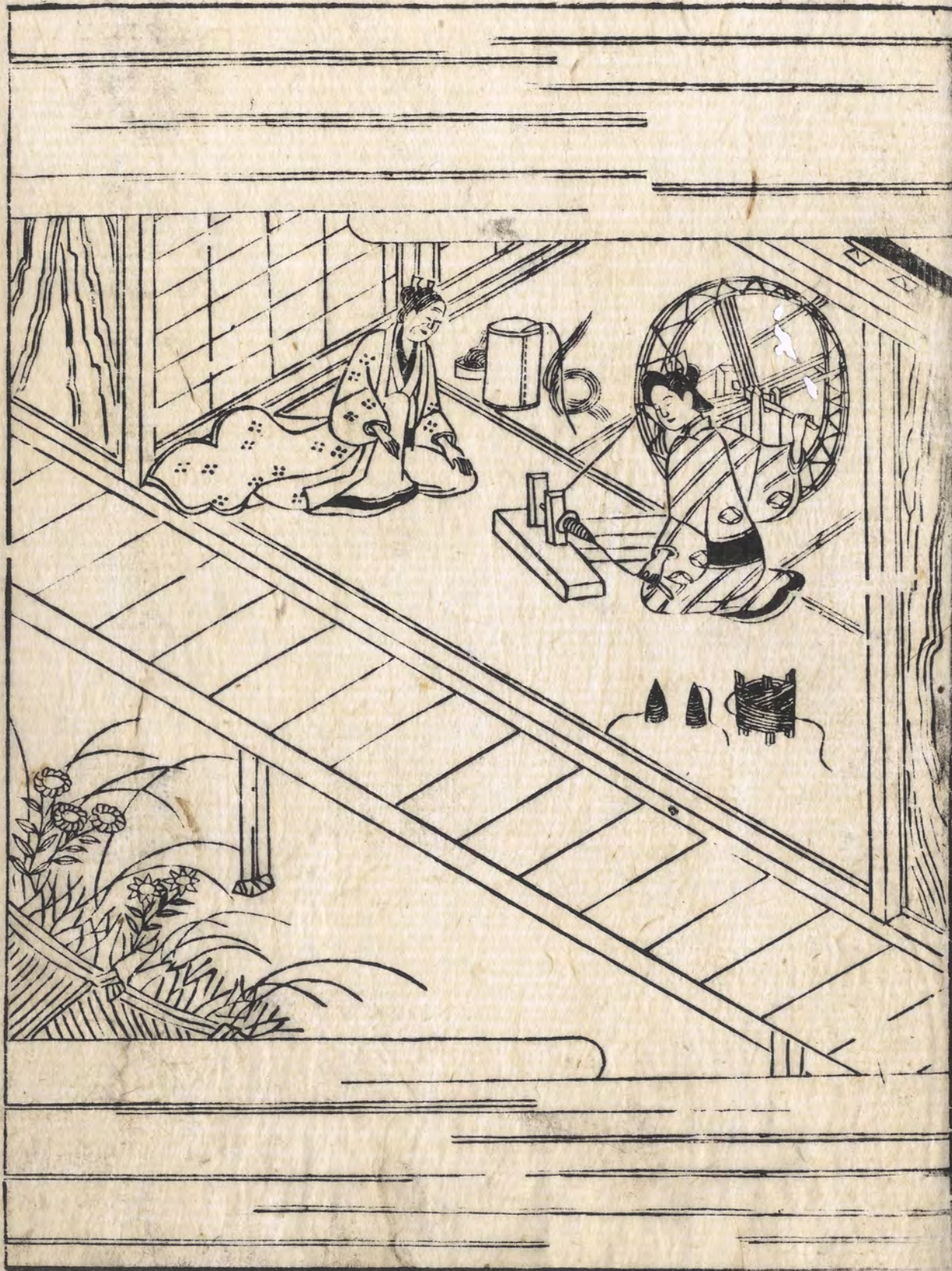
一 岡氏の女孝志

姑のあ眼と

一 張氏が素あ

令く宮へ姑と

一顧^こ法^は儀^ぎ妻^め女^に孝^こへ
忽^い雷^{らい}公^{こう}の難^{なん}と^とのね
二^{ふた}りの婦^ふ人^{にん}を^を皆^{みな}
昼^{ひる}夜^よに^には^はけ^ける



一義と守り孝とけく

名と後代より

一緋綿といふ夢より

忠孝れ志とあらはに



又物と継糸とほじりた

へり節義とちりた

一才あつ人へ綾くられた

何んぞぬき人よあつた

一息ちり人へ貴くられた

綾乃めよるやう

一丈の糸へ須弥山へく

母は海へ巨る海へ

一因^{えん}とて果^{えん}とて

木^きの枝^{えだ}と枯^かと

一法^{ほふ}とて法^{ほふ}とて

野^の乃^の麻^あの草^{くさ}と扶^{たす}と

一有^{あり}とて女^{にょ}の親^{おや}と為^なと

手^て箱^{はこ}とて布^ふと施^せと

一食^{しょく}とて貧^{ひん}女^{にょ}の父^{ちち}母^{はは}と靈^{れい}と

只^{ただ}一つの衣^えとて衣^えとて

厄と奴と孝ハ書フ也ト也ト

一徹妙ハを流るの父ちちと慕こふ

白拍子成行書歌

一孝に人々を懐く

彩衣を満ちて
子孫

一生の命に常あるは

早著提と求

一身ひとみ様ようのたまへへ

目めれれ出でるると結むすぶぶ志し海かい

一ひと後ご綿わたののよよととゆゆひひと

全ぜん後ご世よののささととええはは

一ひと金かね白しろ銀ぎんののささととひひは

只ただいいせせつつりり乃の寶たからなり

一ひと騎きととままささつつめめとと飾かざりハ

父ちちはは佛ぶつ乃のれれ助すけははつつにに

一 庭とる人いの寝あむあは

く現い世せれ樂あし

一 松竹し乃の頌うふ

露るの今い消きううは

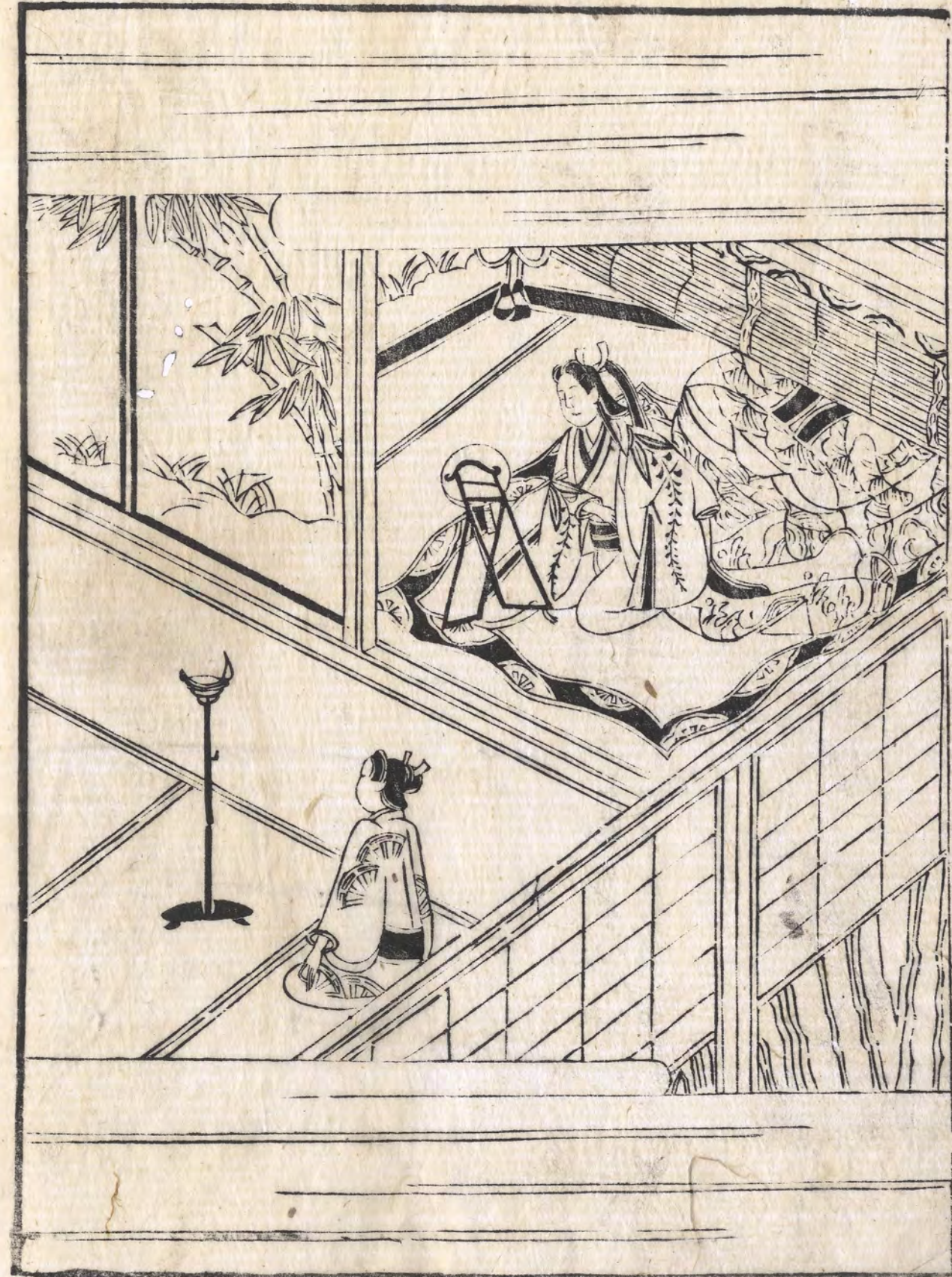


一 鴛鴦の金ぐさむす

あくらうたむす

一 女誠の七章とく

女れいあむす



一 卑弱 ひじやく 子 こ 我 われ 力 ちから と 備 つとめ 居 ゐ

ん ん くら 和 わ くら くら くら

一 丈婦 しやうふ 子 こ 天 てん 地 ち 部 ぶ

部 ぶ 天 てん 地 ち 部 ぶ 天 てん 地 ち 部 ぶ

一 致 し 慎 しん 子 こ 天 てん 地 ち 部 ぶ

梅 うめ 慎 しん 子 こ 天 てん 地 ち 部 ぶ

一 佛 ぶつ 子 こ 天 てん 地 ち 部 ぶ

い い 天 てん 地 ち 部 ぶ 天 てん 地 ち 部 ぶ

一書公之公之公之

男姑
付
金
送

一曲後とて
 六已^{より}
 理^り
 曲^{まが}て

文
陽
の
法
を
と
る

一和叔妹
子山

姉
 妹
 小
 姑
 の
 親
 ぐ
 す
 る
 こと

一
君を懐
念
と
ま
り
く

茲此乃係

一飢^うろものよ食^くと施^しで

新^{しん}の善^{ぜん}提^{だい}乃^のね

一食^{ちく}まのよ室^{しつ}と惱^{なう}

寶^{ほう}善^{ぜん}提^{だい}陳^{ちん}たり

一^い家^け家^け生^{せい}れ

施^しとま力^{りき}なん

一^い他^たの施^しとみ

陽^{やう}喜^き乃^の生^{せい}れ

一 心こころ

にやれとて或あるりよ施し

せ

功徳大なる財海さいかいのて

一 身み

の乃なるおとく余あまぬに施し

能ひんとゆくの故ゆゑ子こは

一 水みづ

と月つき空くうて廟みうとまら

るやく佛ほとけに心こころは

一 花はな

と梅うめく仏ほとけと供くふ

来きたよ連れんれ其その基もとよのほ

二念十念にせんじゅうせん

轉輪王の位えんりんおうのゐも勝かちれ

一妙法華經いちみょうぽうけす法はふ無む

三千界さんぜんがい乃な宝たから也なり勝かち

一上いちじやうの孝養きやうようれなり

中なかつの夫そようつまりき

一下いちげの遍へんをを教しよととしるん

このものにて負おつまはしるは情じやう也なり



一、おろろ人なればいんがふ

女に誠まこと童子こども教しと記し

一、おろろ人なればいんがふ

女に誠まこと童子こども教しと記し

女に誠まこと童子こども教しと記し

元禄八乙亥亥歲歳生生中中旬旬

辰初辰氏氏女女津津不不書書書書是是

文文基基屋屋治治良良普普満満花花板板

江戸樂舎用

